

行歯会だより 第209号

(行歯会＝全国行政歯科技術職連絡会)

令和8年1月発刊



1 年頭あいさつ (P.2)

愛知県保健医療局健康医務部健康対策課 課長補佐

歯科・栄養グループ班長 小栗 智江子

【行歯会 会長】

2 公衆栄養と歯科・口腔保健の有機的連携に向けて (P.2)

新潟県十日町地域振興局健康福祉部(十日町保健所)地域保健課

課長代理 磯部 澄枝(管理栄養士)

3 行政と歯科衛生士会の協働によるオーラルフレイル予防の実践

ー広島市委託事業の4年間を通じてー (P.4)

一般社団法人広島県歯科衛生士会

会長 三好 早苗

4 日本歯科医学会学術大会報告

(1) 第25回日本歯科医学会学術大会 ーポスター発表を行ってー (P.6)

東京都板橋区板橋健康福祉センター

長岡 玲香

(2) “行政歯科衛生士の配置状況と地域歯科保健活動”に関する講演を拝聴して (P.7)

東京都板橋区志村健康福祉センター

石垣 翔子

5 世話役のつぶやき<鳥取県> (P.7)

鳥取県中部総合事務所倉吉保健所

谷口 加那恵

6 New Face!! (P.8)

東京都 中野区 中部すこやか福祉センター

鵜之澤 枝央梨



1 年頭あいさつ



愛知県保健医療局健康医務部健康対策課 課長補佐
歯科・栄養グループ班長 小栗 智江子
【行歯会 会長】

会員の皆様、賛助会員の先生方、「行歯会だより」をご覧いただいている皆様、新年あけましておめでとうございます。

昨年5月に第6期がスタートし、これまでの活動を振り返りながら書いています。

春には「新潟フッ化物洗口視察 Part2」、夏には初めて厚生労働省歯科保健課へ要望書を提出、秋には行歯会活動DX化の試行と公衆衛生学会での自由集会、そして冬、12月10日にはオンライン研修会を盛況のうちに終えることができました。こうして令和8年を無事に迎えられたのも、皆様の日頃の多大なご協力のおかげです。心より感謝申し上げます。

真面目な話をひとつ。オンライン研修会のテーマにも関連しますが、2040年を見据えた今、行政歯科業務も転換期にあると自覚せねばなりません。年末にかけて国の補正予算（実施主体は都道府県）と悪戦苦闘しましたが、これを活かせるかどうかは私たちの行政能力にかかっています。事業化できるよう働いて×5（もちろん休んで）まいりましょう。詳細は別の機会にお知らせします。

さて、私事ですが、丙午（ひのえうま）の年女です。先月30年ぶりに髪を切りました。朝の支度が楽になり、シャンプーは節約でき、肩こりもなくなったような…本当に良いことばかりです。身軽になったところで心新たにし、全国の後輩たちにバトンを渡す活動を進めていこうと思っています。

皆様のご活躍とご健勝を心より祈念し、私の新年のご挨拶とさせていただきます。

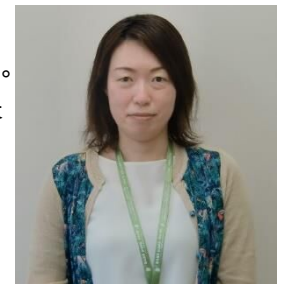


2 公衆栄養と歯科・口腔保健の有機的連携に向けて

新潟県十日町地域振興局健康福祉部（十日町保健所）地域保健課
課長代理 磯部 澄枝（管理栄養士）

2025年5月16日（金）から18日（日）にかけて、新潟県にて第74回日本口腔衛生学会学術大会（大会長：小松崎明先生、実行委員長：鴨田剛司先生）が開催されました。

本大会では、三浦宏子先生（北海道医療大学歯学部保健衛生学分野）が企画・座長を務められたシンポジウム「公衆栄養との連携に基づく成人・高齢期の歯・口腔の健康づくり」に、公衆栄養分野の立場から参加する機会をいただきました。歯科・口腔保健分野を牽引されている先生方と活発かつ有意義な議論を交わすことができ、改めて深く感謝申し上げます。本稿では、当該シンポジウムの内容を中心に報告いたします。



全国の都道府県及び市区町村には約7,700人の行政管理栄養士・栄養士（以下、「行政管理栄養士」という）が勤務しており、地域住民（個人・集団）が抱える健康・栄養課題の解決に向けた施策や事業の企画・立案、PDCAサイクルにより推進し公衆栄養活動を展開しています。

しかし、各自治体における配置は単独または少数が多く、新任期には早期に財政折衝を含む高度な行政能力の獲得が求められる一方、中堅期以降は持続的な人材育成体制が確立されていないことが課題となっています。

保健分野に配置されている行政管理栄養士は、令和6年度から開始された「健康日本21（第三次）」を踏まえ、歯科・口腔保健分野と同様に「全ての国民が健やかで心豊かに生活できる持続可能な社会の実現」に向けて、「健康寿命の延伸」と「健康格差の縮小」をアウトカムとした、「誰一人取り残さない栄養施策」及び「より実効性をもつ取組」を推進する役割を担っています。

新たな視点として、女性の健康（プレコンセプションケア含む）、生活困窮等による経済格差に伴う栄養格差の縮小、健康に関心が薄い者を含む幅広い世代にアプローチするための自然に健康になれる食環境づくりの構築

などととも、多部署・多領域、多様な主体を巻き込んだ横断的かつ戦略的な健康づくり・栄養改善政策・施策の推進が求められています。

歯・口腔の健康づくりと栄養・食生活分野は「適切な食生活の実現」という共通の目的を有しており、両分野の連携は、地域住民の健康の維持増進及び疾病予防へ大きく寄与すると考えます。しかし、両分野の施策や事業を担う自治体専門職は少数精鋭であり、配置部署が限られているのが現状です。

そのため、地域保健の現場においては、両分野が目指す姿やアウトカム、専門性、地域ネットワーク(リソース)などの強みを相互理解し、成果が得られる有機的な連携体制を構築することが重要であると考えます。

平常時の歯科・口腔保健と公衆栄養活動の有機的連携は、自然災害などの健康危機管理時にも有効に機能するはずで。

新潟県では、地域ネットワーク(リソース)を共有し、地域で「食を通じた健康づくり」を推進するボランティア団体である食生活改善推進委員(ヘルスメイト)の活動に「お口の健康」を組み入れていただき、食育と連動した活動を展開するとともに、活動実績をモニタリングしています(図)。また、一部地域では高齢者の通いの場において、フレイル予防の一環として、低栄養予防とオーラルフレイル予防の普及啓発と実態把握を行っています。今後、成果の共有と見える化を進めることで、両分野の有機的連携はさらに深化すると考えられます。

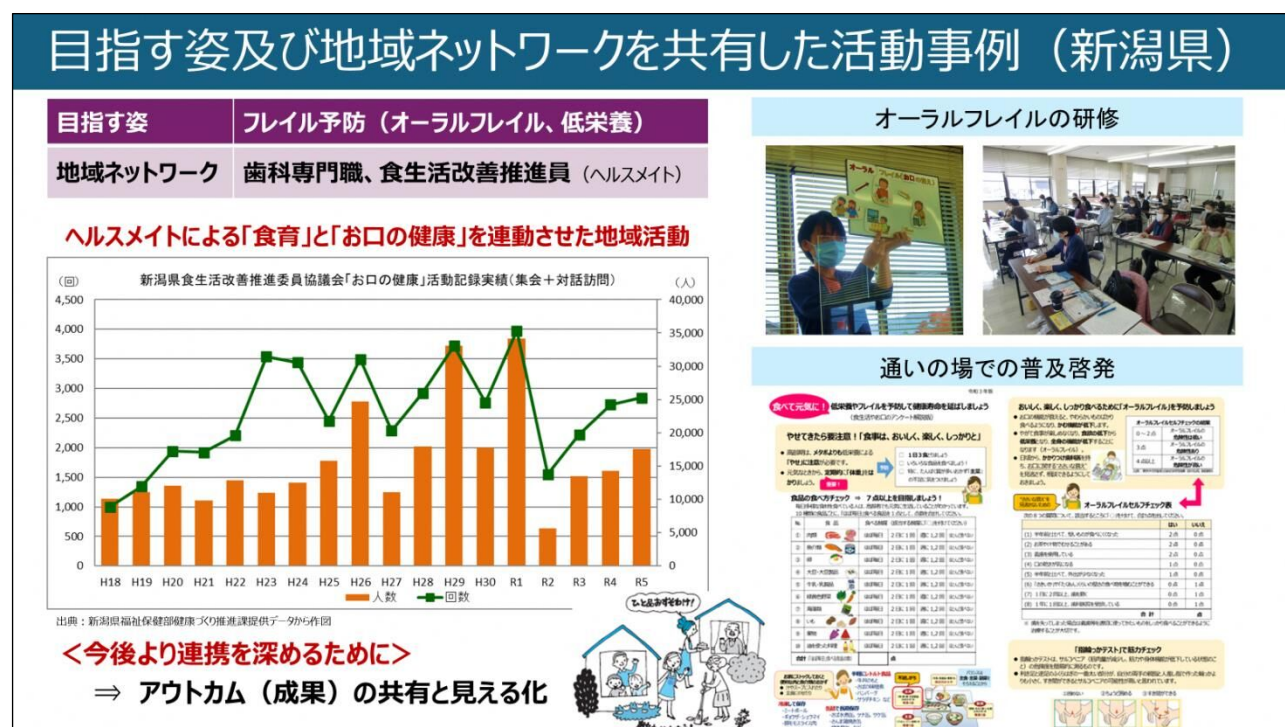


図 新潟県の事例

一方、成人期(特に働き盛り世代)に対するポピュレーションは両分野に共通する課題であり、事例も限られています。

私見ですが、戦略の切り口としては、

- 国や自治体における重要政策(総合計画など)との連動
 - 課題の優先度の明確化
 - 対象のセグメント(女性の健康、子育て世代、産業分類別事業所など)
 - 健康経営など効果的・効率的な機会との連動
- などが有効と考えられます。

自治体における公衆衛生分野の専門職は、人々と社会の健康(Well-Being)を高めるために、地域社会の

健康課題に焦点を当て、その解決に必要な仕組みを構築・推進し、地域をより良いものへと導く役割を担っています。社会情勢がめまぐるしく変化し、複雑化する現代において、私たちは将来を見据え、新たな課題に果敢に向き合い、「どうあるべきか」「どうすべきか」を考え抜き、実行し、課題を解決することこそ使命と存在意義（パーパス）があると考えます。今後も「適切な食生活の実現」に向けて、目指す姿やアウトカム、専門性、地域のリソースを共有し、シナジー効果を創出できる関係性の構築を期待しています。

3 行政と歯科衛生士会の協働によるオーラルフレイル予防の実践

—広島市委託事業の4年間を通じて—

一般社団法人広島県歯科衛生士会
会長 三好 早苗

1. はじめに

このたびは寄稿の機会をいただき、誠にありがとうございます。私は2021年に広島県歯科衛生士会の会長に就任いたしました。それ以前は広島県竹原市（人口約2万人）で約15年間、地域の歯科衛生士会員として介護予防事業や通いの場の支援など地域口腔保健活動に携わってきました。行政職ではない私にとって「行歯会だより」は、行政歯科保健の動向を知るための貴重な情報源であり、バックナンバーから多くの学びを得てきました。今回、執筆の機会を頂けたことを大変光栄に感じております。



広島県は人口約270万人を有しますが、行政歯科衛生士は10名、会計年度任用職員を含めても約30名にとどまり（2024年7月末時点、当会調べ）、多くの市町では行政歯科衛生士が配置されていません。そのため、地域で活動する歯科衛生士や歯科衛生士会が行政事業の一部を補完している状況が続いています。2020年に施行された「保健事業と介護予防の一体的実施」により、フレイル・オーラルフレイル対策の重要性は増していますが、行政内のマネジメント人材の不足は依然として大きな課題です。

一方、広島市には行政内に歯科医師および歯科衛生士が配属されており、行政組織の中に歯科保健の専門職が存在する点は大きな強みです。行政歯科衛生士が中心となり、地域包括支援センターや保健師との連携体制が整備されているところへ歯科衛生士会が加わることで、専門職同士が役割を補完しながら事業を推進する体制が構築されています。本稿では、広島市から受託した事業を例に、行政と都道府県歯科衛生士会との連携体制とその成果について報告いたします。

2. 事業内容と体制整備について

広島県歯科衛生士会は令和3年度より、広島市の「高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施（口腔）」事業を受託し、アウトリーチ型のオーラルフレイル予防支援に取り組んでいます。広島市は人口約117万人、高齢化率約26%の政令指定都市であり、41か所の地域包括支援センターを軸に「通いの場」が展開されています。

本事業は、通いの場での集団支援（ポピュレーションアプローチ）と、基本チェックリストで抽出した75歳以上の高齢者への個別支援（ハイリスクアプローチ）の二本立てで構成されています。さらに令和5年度からは、KDBデータに基づくハイリスク者抽出も開始されました。対象者はまだ限られていますが、データ連携を活用した早期介入体制の構築は、今後の行政歯科保健の新たな可能性を広げるものと考えています。

広島県歯科衛生士会では、本事業の質の維持向上と従事する歯科衛生士が安心して活動できる環境整備に力を注いでいます。毎年度、従事者募集と事業説明会を実施し、事業の目的や内容を周知しています。活動の標準化と業務の統一化を図るために、マニュアルや媒体資料の整備、従事者同士の交流・情報交換のための報告会を開催しています。また、クラウド型ビジネスチャットツール（LINE WORKS）を導入し、日常的な相談やタイムリーな情報共有を可能とする体制づくりを進めてきました。さらに、従事者アンケートの結果を行政と共有し、翌年度の事業改善へ反映する仕組みも整えています（図1）。

広島県歯科衛生士会としての事業運営（年間予定）

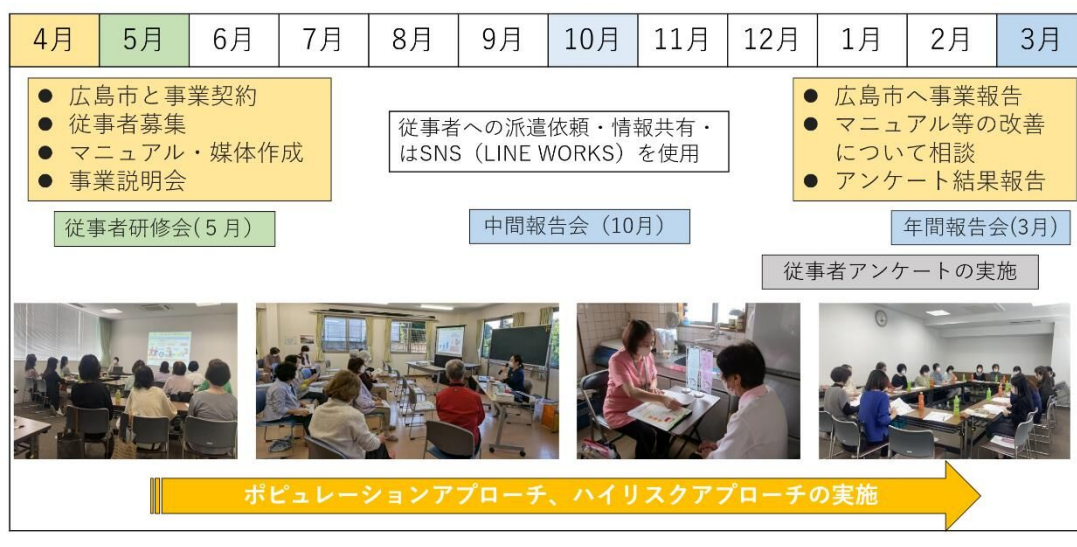


図 1：受託事業に対する体制整備

3. 事業における成果と課題

4年間の取り組みにより、一定の成果が確認されました。まず、ポピュレーションアプローチでは延べ7,000人を超える住民にアプローチでき、地域におけるオーラルフレイルの早期発見や気づきにつながっています。ハイリスク該当率は年間を通しておおむね22%前後で推移しており、地域に一定のリスク層が存在することが明らかになりました。

また、ハイリスクアプローチでは、毎年度約100名に個別指導を実施し、3回の介入による改善率は70～90%と高い成果が得られています。歯科受診への接続率も令和4年度4.5%から令和6年度には43.0%へと大幅に向上し、対象者の抽出からフォローアップまでの支援体制が機能し始めていることが示唆されます。

従事歯科衛生士からは「地域包括支援センターや保健師との連携が深まった」、「マニュアルや説明会があることで初参加でも安心して活動できた」といった肯定的な意見も寄せられています。また、8割以上の歯科衛生士が翌年度も継続して従事しており、人材育成と体制整備により、活動のやりがいや継続性が確保されてきたと考えられます（図 2）。

人材育成・体制整備の取り組み効果

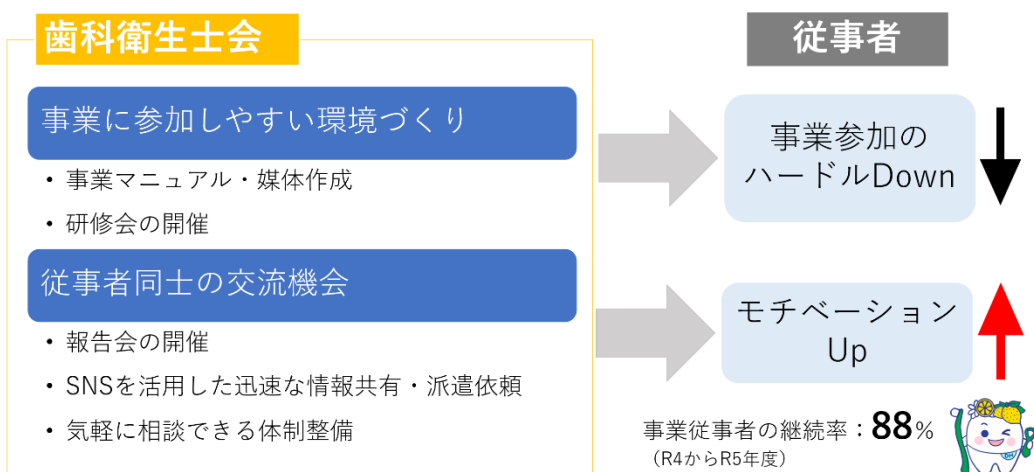


図 2：人材育成・体制整備の効果

しかしながら、課題も明らかになっています。通所口腔ケアサービス（通所 C）への接続は数件にとどまり、関係機関との連携強化が求められます。また、広島市の高齢者人口規模（約31万人）を踏まえると、現状の支援は“点的”であり、“面的展開”には至っていません。フレイル・オーラルフレイル予防を実効性のあるものとするためには、栄養、運動、社会参加など多面的な介入を行う他分野との連携が欠かせません。さらに、地域住民への事業周知が十分とは言えず、個別支援における自宅訪問では支援の意図が十分に伝わらず、訪問を断られるケースが増えています。加えて、大規模都市ゆえの構造的な課題として、歯科衛生士の人材派遣に偏りが生じやすい点も挙げられます。本来であれば、その地域に居住または勤務する歯科衛生士が対応するのが望ましいものの、日常生活圏域外の会員が対応せざるを得ず、地域に密着した支援が難しい状況があります。これらについては現在、行政と協議しながら改善策を検討しているところです。

4. さいごに

本事業において広島県歯科衛生士会が大切にしてきたのは、「事業を実施して終わり」にするのではなく、現場の意見や課題を丁寧に拾い上げ、翌年度の改善につなげる姿勢です。行政委託事業は、とすると「指示されたことを遂行する」運用に陥りがちですが、それでは現場の実情が反映されず、十分な成果を生み出すことはできません。行政歯科衛生士と歯科衛生士会が互いの役割を補完しながら、PDCAサイクルを継続的に回してきたことが、本事業の成果を支える基盤となったと考えます。今後も行政と緊密に連携しながら、多面的かつ継続的な支援へと発展させ、地域に根ざした口腔保健活動のさらなる充実に努めてまいります。

4 日本歯科医学会学術大会報告

(1) 第25回日本歯科医学会学術大会 ポスター発表を行ってー

東京都板橋区板橋健康福祉センター

長岡 玲香

この度、標記学会にてポスター発表を行うこととなった理由は大きく2つあります。以前から大変お世話になっている川口陽子先生が会頭を務められること、東京都板橋区の歯科的課題を可視化し、関係者に共有することです。

従前より、地域課題の抽出と解決のために1歳6か月児歯科健康診査、3歳児歯科健康診査結果等の分析を行ってきました。課題を数値で示し、歯科衛生士間の共通認識を高めるとともに、歯科専門職でない所属長や関係機関・部署への説明・相互理解・連携強化に活用することを目的としました。

今回の発表テーマは「東京都板橋区における3歳児歯科健康診査の現状と課題」で、区の業務に直結する内容です。本来業務に支障がなければ業務時間内での研究・作業が認められるという区のルールを再確認できた点も重要でした。

保健所長に「学術大会へポスターを提出します!」と宣言したものの、データ修正は締切ギリギリまでかかりました。データの整理・グラフ化・見やすさの工夫などは、川口先生をはじめ多くの方々の助言と助力があってこそ形にできました。

本分析から、3歳児のう蝕抑制の取り組みとして、まず1歳6か月児歯科健診時に、う蝕と診断された児の保護者へ SMS（ショートメール）を活用した歯科受診状況の確認を開始しました。ライフスタイルの多様化により、日中の電話がつながりにくい保護者に対し、ショートメールで受診可否を尋ね、回答を得ています。外国籍の方に送る外国語版の作成には、庁内国際交流課の翻訳協力を得ました。

今年度中に、3歳児歯科健診においても同様の取り組みを開始する予定です。その他の課題についても準備を進めています。



板橋区長岡（左）・石垣（中央）

(2) “行政歯科衛生士の配置状況と地域歯科保健活動”に関する講演を拝聴して

石垣 翔子

私は現在、板橋区に勤務しており、先のポスター発表で示したとおり、区の現状を把握し、課題抽出と解決に取り組んでまいりました。これまで自分の所属する区の歯科保健に真摯に向き合ってきたものの、今回長さんの講演を拝聴し、少数職種である私たちは自らの自治体だけでなく、より高い視座で全国の歯科保健の実態にも目を向けながら、自治体の課題を再評価すべきだと認識を新たにしました。今後も全国の行政歯科職の皆さまと本会の活動や各種学会・研修会を通じて、自治体の枠を越えて連携し、互いに高め合い、支え合っていけることを願っております。

●●●●●鳥取県●●●●●

谷口 加那恵

A head-and-shoulders portrait of Dr. Yoko Kato. She has short, dark hair with bangs and is wearing a dark blazer over a white collared shirt. She is smiling slightly at the camera.

7

《デンタルプロフェッショナル派遣事業》

<対象>	① おし歯予防コース：県内小学校低学年児童、保護者、学校歯科保健関係者 ② 歯肉炎予防コース：県内小学校高学年児童又は中学校生徒、保護者、学校歯科保健関係者等 ※原則3年で1クールの事業
<内容>	■ モデル学校、モデル学年選定 ■ モデル学年児童・保護者にアンケート調査 ■ モデル校関係者による検討会の開催（参集者：教育委員会、学校、学校歯科医、市町村、保健所） → 歯科健診結果の分析、アンケートからみえた課題等の検討 ■ 児童・生徒等を対象に歯科保健指導の開催 → おし歯リスク検査、歯垢染め出し、歯みがき指導、歯科健康教育等 ■ 活動報告（実施モデル校等における活動報告の実施）



本事業は、モデル学校を選定するところから、教育委員会、学校、市町村、歯科医師会、歯科衛生士会、保健所が連携して取り組んでいます。関係機関と共に取り組むことで、児童の現状や課題等を共有することができ、連携を深めることができています。

児童の課題に合った歯科健康教育等を行うことで、児童のデンタルフロスの使用、夜の歯みがき等の行動変容が起こり、また、市町と一緒にすることで、健康教育の内容が活かされ、乳幼児健診においてデンタルフロスの配布につながりました。

モデル校終了後も、学校での歯科保健教育の実施、各関係者と連携した取り組みが継続していくことを見据えて、来年度3年目の取り組みを進めていきたいと思っています。

11月に東京で開かれた「令和7年度 行政歯科衛生士研修会」に初めて参加し、たくさんの行政歯科衛生士の方とお話し、情報共有することができました。とても、勉強になりましたし、自分と同じように悩みながらも前向きに頑張っておられる行政歯科衛生士の方がいらっしゃるということがわかったことが何よりも嬉しかったです。そこでも、連携した取り組み、横のつながりを大事にすることを学びました。

今後の業務においても、関係機関との顔の見える関係、つながりを大事にしていこうと強く思いました。

6 New Face!!



東京都 中野区 中部すこやか福祉センター
鵜之澤 枝央梨

1 はじめに

はじめまして。中野区中部すこやか福祉センターの鵜之澤と申します。日頃より、行歯会の皆様には大変有益な情報をいただき、心より感謝申し上げます。このたび執筆の機会を賜りましたので、恐縮ではございますが、自己紹介をさせていただきます。

2 自己紹介

私は東京都の下町で生まれ育ちました。趣味は旅行（海外にも行きます♪）、美味しいお店を探すこと、ライブ鑑賞などです。

歯科衛生士としてのキャリアは、歯科医院での勤務から始まり、保険診療から自由診療まで幅広い分野で経験を積んできました。学会や勉強会への参加、認定資格の取得にも積極的に取り組み、恵まれた環境で業務に専念する中で、やりがいや楽しさを強く実感していました。日々の臨床を通じて、「歯科衛生士としてもっとできることはないか」と考えるようになり、より多くの人々の健康に貢献できる「公衆衛生」分野に関心を持つようになりました。



コロナ禍をきっかけに次のステップへ進む決意を固め、さらなる経験とスキルアップを目指して母校の専攻科に入学・修了。その後、附属病院へ勤務しました。そして、中野区とのご縁をいただき、令和6年4月に入区し、現在に至ります。

3 中野区について

中野区は東京都23区の西側に位置し、人口は約34万人です。都心へのアクセスが良好で利便性が高い一方、サブカルチャーや多様な個性が集まる文化的な側面も持ち合わせています。商業地と静かな住宅地が共存し、古き良き風情と新しい魅力が融合した街です。また、再開発が進んでおり、商業施設や公共施設のさらなる充実が期待されています。南北に長い地形を有しているため、各地区にはそれぞれ特色があり、区民のニーズも異なるのが特徴です。

私はその中でも人口の多い地域に位置する「中部すこやか福祉センター」に配属され、主に母子保健事業に従事しています。また、区役所にも兼務として関わり、歯科保健事業の取りまとめを担当しています。

4 おわりに

これまでの臨床とは大きく異なる環境と業務、そして先輩がいない状況の中で、入区してすぐに取りまとめという役割を担わなければならないことに、最初は戸惑いを感じていました。しかし、周りの方々のサポートを受けながら、なんとか2年目を迎えることができました。

他自治体の方々と繋がることのできる「行歯会」などの環境は、非常にありがたいと感じています。日々、何か自分なりにできることを考えながら過ごしていますが、それを実現できるよう、今後も精進してまいります。今後ともご指導・ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

♪ 編集後記 ♪

新年あけましておめでとうございます。昨年は、キャンピングカーでの旅という新しい体験に挑戦しました。今年はどんな“初めまして”に巡り合えるのか楽しみです。皆さまにとっても、笑顔あふれる一年になりますように。本年もどうぞよろしくお願いいたします。(A)



今年の干支は午ですが、なんと馬は年間3~4mm 程度歯が伸び続けるそうです。生涯歯が伸びるのはネズミやうさぎ等のげっ歯類のイメージでしたが、馬も固い草を食べるために、伸びて削られてを繰り返すようです。

午年の象徴は、「前進・活力・行動力」等です！今年も皆様の更なる活躍を祈念いたします。本年もよろしくお願いいたします。(T)

